

複雑化する日本の安全保障



Vol.50
歴史における
嘘と隠蔽と

「暴をもつて暴にかえ、その非を知らず」

今から3000年以上前の中国の詩の一節です。パレスチナの武装勢力「ハマス」による大規模な奇襲攻撃が行われ多くのイスラエル市民が殺されたというニュースを聞いて思い出しました。

およそ3000年前の中国を支配

しよう。英国で作られて1962年に公開されたこの映画では、ロレンスはアラブ世界をオスマン・トルコの支配から解放放った英雄です。しかしロンドンにある「帝国戦争博物館」を訪ねれば、英国の二枚舌どころではない狡猾な三枚舌外交を説明した3枚の中東の地図を見ることができません。アラブ国家独立を約束した「フサイン・マクマホン協定」、パレスチナにおけるユダヤ人居住地を明記したバルフォア宣言、そして英仏露がそれぞれの勢力範囲を合意したサイクス・ピコ協定。それぞれがどのような戦後の中東を描いていたのかがよく分かるのですが、解説のための4枚目の地図があります。中東の白地図に赤鉛筆でグジャグジャな塗りつぶしがあり、混乱以外の何も生まなかつたことを暗示しています。

サイクス・ピコ協定の詳細を知らされていたロレンスは英国外交の嘘とアラブ国家の独立などあり得ないことを知りながら、ダマスカス攻略を共に戦った盟友のファイサル（後にイラク王国の初代国王となります）に嘘をつきました。アラブの独立を約束した英国の言葉に間違いはない

していた「商」（日本では「殷」の方が使われますが）王朝の王様がひどい人であったために、有力な諸侯の一つであった「周」の王様が武力でこの王朝を倒したという話が伝わっています。「夏桀殷紂」という言葉は暴虐非道悪逆無道な王様を示す言葉として使われますが、この時に滅ぼされたのが「殷紂」、つまり殷の紂王です。ただしこの国の首都であった場所の発掘が進み考古学的な発見と研究が進むにつれて、司馬遷の「史記」が伝えるようなひどい王様だったという実績が出てこないことから、周の王朝が武力で政権を奪ったことを正当化するための宣伝が後世に伝えられていったのではないかと見られるようになりました。

プロパガンダが事実を隠蔽してしまふ例は古代からあつたようです。最近の事例を分析したものととして『戦争広告代理店』という本があります。ユーゴスラビアが解体する過程で「民族浄化」と呼ばれるジェノサイドの事案が問われ、セルビアの大統領だったミロシエビッチは国連が設置した「旧ユーゴスラビア国際戦犯法廷」に起訴されました。そこに

と。

3000年も経てば作り話がまことしやかに広まります。架空の人物に仮託して思想を述べることもできるでしょう。中国では長い間、聖人が王となつて国を治め、歳をとつたところで自分に代わる新しい聖人を探し出して国を譲る、という考え方がありました。武力によって王朝を倒したのは「周」が最初ですから、その行為が正しいものだったということをも人々に納得させなくてはなりません。プロパガンダが必要となる所以です。こうして、滅んだ王朝の最後の王様は新しい王朝に都合の良いように悪者に仕立てられますが、発掘された青銅器によれば殷の紂王は祭祀を近代化し人身御供を止めさせた改革者です。

もちろん「周」の行為を批判するプロパガンダも出てきます。冒頭の詩がそのような批判の一節で、武力による王朝交代を批判して餓死することを選んだ聖人がいた、というお話になっています。紂王がいわれるほどの悪者ではなかったのと同様に、そのような聖人も多分いなかったことでしょう。しかし、その時代が必要としたフィクションが歳月を経る

は「民族浄化を行ったのはセルビア」という理解がありました。実際にはそう簡単な理解で済ませられるものではない、ということが丁寧に解説されています。「噂の真相」という、ダスティン・ホフマンやロバート・デニーロが出演している映画も、一つの事件を隠蔽するために他の話が作られていく過程を面白おかしく描いています。

果たして私たちは隠蔽された真実を知ることができるのでしょうか。今回のハマスの攻撃についても「テロ行為」としての非難が寄せられています。米国が主導して英独仏伊の5カ国（G7から日本とカナダが落ちています。EUも入っていません。G7の今年の議長国である日本がどのように動いたのか分かりませんが）が会談を行い一致して非難しています。言い換えればイスラエル寄りの立場をとるとのことです。そうした単純化した図式で理解が十分かと問われれば、否と言わざるを得ないでしょう。

ピーター・オトゥールが主役を演じた『アラビアのロレンス』のお話。私たちには強く影響しているのだから、ことよって膨らんでゆき、立派な一つのお話として、あえて言うならばほとんど事実のように、語り継がれていったのです。

中東で英国が詐術に満ちた外交を繰り返してからようやく100年です。その結果生まれた不和と混乱から逃げ出す術は見つかっていません。ロレンスの活躍がきれいなお伽話に化けることなど許されないので



西 正典
Masanori Nishi
1978年東京大学卒業、防衛庁に入庁。那覇防衛施設局長、内閣官房遺棄化学兵器処理対策室長などを経て2013年防衛事務次官。2015年退官。現在ボストンコンサルティンググループシニアアドバイザー、トランス・パシフィック・グループ会長 (<https://www.transpacificgp.com/>)。